

高知新聞

須崎工業高等学校

Tsunamiと地球と私たち

10月末、高知市永国寺町の県公立大キャンパスの一室に、20人の高校生が集まった。高校生サミットに向けた学習会。津波で壊された街の写真を示しながら、指導役の長崎政治・高知工科大学教授が語り掛ける。

「必要なのはパッション。二度とこういう悲しいシーンを見たくないという祈り、使命感、熱い思いをどう伝えるかです」

鼓舞に応え、県内から参加する5校の生徒たちが英語での研究発表に挑んだ。

須崎工業高は、過去の災害で須崎市が受けた被害の状況や、生徒が作った簡易トイレを紹介。須崎高も、住民の個別避難ルートづくりを手伝う取り組みなどを発表した。高知西高は避難生活での食料不足を考え、企業や個人への農業推奨を提案した。高知県民には地震の経験が少ないことを指摘し、注意喚起の必要性を説いたのは土佐塾高。

③ 県内校



サミット本番に向け、県内高校生たちは真剣な表情で研究発表の練習に励んだ。(10月30日、高知市永国寺町)

目標と責任胸に準備

小津高は避難所に塩などの備えを提案した。

意識変わった

小津高の参加者は2年生4人。外国の生徒と英語で話し合いという動機で、防災に強い心はなかったと口をそろえ、水で戻したアルファ米を

暗かりで試食した。芯の残った冷やご飯。むなしかった。それだけに、塩をかけた時のおいしさが印象に残り、備蓄してゐる。

家庭クラブが過去に行った調査に着眼した。被災した直の必要を感じた。

赤神青空さん(17)は「簡単やけど、結果は大きく違う。小さな備えも大事だと思つて

もらえたら」と話す。

震災について学ぶうち、メンバーの意識も変わった。地震が来たら、近所のおじいちゃんたちを誘導しようと思ふ「もう一つ知識を深めたい。自分たちが防災のリーダーに。そんな使命感が芽生えて

ハートが大切

県内からの参加校はもう1校ある。議長校の大方高だ。今井忍さん(16)と今村琳花さん(16)の1年生2人が重責を担う。

「ウエルカムトゥクロシオチョウ。マイネームイズ」

今月11日夕、黒潮町役場で議事進行の確認が行われた。議長スピーチが一段落した

「世界津波の日 高校生サミットin黒潮」25、26日開催



世界津波の日
高校生サミット開催！

須崎工高生参加発表①